

1日店主 のもーれ!! 長岡

第11回

3.22

金

19:00~
18:30~受付開始

頑張っている団体を応援しませんか?

市民活動パワーアップ のもーれ!!

～久しぶりにあおーれ～

今回は、市民活動を頑張っている団体さんが、参加者の皆さんにPRできるのもーれを企画しました。団体のPRをはじめ、各団体の夢を皆さんで語り合いませんか?参加者はどなたでもOKです。市民活動をやっている方、ボランティアをしたい方、長岡をもっと良いまちにしたい方、長岡がよくわからない方、皆さんで熱く語り合いませんか?そこで、今回の店主はPRしたい団体の皆さんです。別紙エントリーシートでご応募ください。

参加申し込み
受付中

当日、飛び込み
参加も可能です。

- 第1部 19:00~**
- ・市民活動助成金の概要説明
 - ・協働センター団体PR事業説明
 - ・本日の店主PRタイム

第2部 19:30~ 交流会 賞金付ゲームあり!

- 会 場 ● アオーレ長岡 西棟1階交流ホールA
(長岡市大手通り1-4-10)
- 店 主 ● PRしたい団体のみなさん
- 会 費 ● 2,000円(中学生まで1,000円)
- 料 理 ● 軽食、飲み物(アルコール等も)用意します。
皆さんのおすすめの1品募集します。
※参加人数は60名前後を予定しています。
ご用意いただいた方には材料費1,000円を補助させていただきます。
- 締 切 ● 3月18日(月) 下記までお問合せください。

お知らせ

同日17:00から講演会を開催します。
「寄附促進イベントinながおか」

講師 きょうとNPOセンター副理事長
深尾 昌峰さん

参加無料ですので、
ぜひ合わせて
ご参加ください。
※別紙チラシにて
お申し込みください。

【申込・問い合わせ先】ながおか市民協働センター
Tel.0258-39-2020 Fax.0258-39-2900
E-mail kyodo-c@ao-re.jp
URL <http://nkyod.org>

2013.3.10(金) ながおか市民協働センター 市民協働センターPRオープニングイベント実行委員会 〒940-8501 長岡市大手通り1丁目4番地10 シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3F Tel.0258-39-2020

FREE

らこらマ

Racotte
vol.12

2013
03
FREE

あなたの想いをカタチにする みんなが輝く情報誌

発行 ● ながおか市民協働センター 市民協働センターPRオープニングイベント実行委員会

市民交流の拠点、市民活動ハレの場としてアオーレ長岡がオープンして1年が経ちます。あらゆる市民活動がアオーレで繰り広げられました。市民協働センターも「生みだす、育てる、繋がる」をモットーに市民活動を支援してきました。今月のらこらマ特集では、1年間のアオーレ長岡で繰り広げられたイベントや、市民協働センターが出会った団体を振り返りながら、協働の事例を紹介します。

お茶の間サロンの健康づくりにフラダンスが華々しく開催

アオーレ長岡、華々しくオープン!

オープニングセレモニーでは長岡高専生による「ピタゴラスイッチくす玉」が披露されました

オープニングイベントは大盛況に終わり協働センターの船出を熱く祝いました

ナカドマで市民活動助成金公開プレゼンを行いました

小中学生の真剣なまなざしに大人も元気をもらっています

各地域のマスコットキャラが集結!のもーれ後、出動の要請が増えたようです

フェスタで展示する横断幕にみんなで寄せ書きをしました

小国の住民が一致団結したまちづくりをこれからも応援します!

市民活動団体が忘年会を兼ねて大パーティーを行いました

Contents

特集 市民活動この一年を振り返る ～生まれた!育った!繋がった!～ (P2~7)

のもーれで振り返るこの1年間(P8~9)

どのように市民協働センターが使われたのか(P10~11)

【連載】月刊寄付白書(P12)

【連載】イベントレポート/オール川口フェスタ裏側レポート(P13)

【連載】協働のまちづくりの潮流(P14)

市民協働この1年を振り返って(P15)

協働センターからのお知らせ(P16)

特集 市民活動この一年を振り返る ～生まれた！育った！繋がった！～

Was born!
Grew up!
Be connected!

それでは、4月から順を追って団体や活動をご紹介します。
皆さんの活動に取り組む真剣な顔や笑顔があふれています！

4月

ぶれジョブ青葉台・関原

出会いから広がる活動

ぶれジョブとは、障がいのある子どもたちを対象とした就労体験のプログラムです。

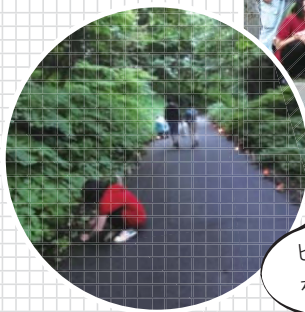
長岡では、青葉台地区を中心に活動しています。(協働センターでは2012年6月から小学校6年生の児童が、掃除や書類の封詰作業などを手伝いました。)

市民活動団体の交流会「のもーれ!長岡」に参加したことがきっかけで、新しくボランティアさんが増えました。また、活動場所として蔦屋書店の紹介を受け、さらに活動の幅が広がりました。



市民協働センターで
ボランティア活動

5月



ピュアはーとさんが準備
を手伝ってくれました



三島ライトアップ実行委員会

想いがつながった活動

三島地域は里山からの豊富な湧き水に恵まれています。

しかし、近年は里山の荒廃が進み環境が悪化。里山再生と水源保護を目的に、楽しく参加できる啓発イベントを行っています。10月の竹あかり街道のイベントだけではなく蛍の観賞会も開催しています。「のもーれ!長岡」がきっかけで知り合ったピュアはーとさんが、社会体験活動の場としてボランティアに来てくれました。



コロロを学ぶ会

助成金から広がる活動

発達障害児の母親たちで、子どもにとってよりよい療育方法を勉強し、実践しています。

結成してまだ3年ですが、昨年から市民活動団体助成金を利用して、活動の本格化が進んでいます。おかげで新しい仲間も増え、コミセンなどで行う運動療法のプログラムには、ボランティアの方や子どもの学級担任の先生が来てくださるようにもなりました。

ポスター作成会で立派なPR
ポスターが出来上がりました!



6月

山通地区「きらきら50」

私たちの元気で地域も元気にしたい!

子育てがひと段落した、山通地区の元気な女性たちが「まだまだ私達もこれから輝きたい!」と作った団体が「きらきら50」です。地域コミュニティ助成金を獲得し、地元が元気になる事業を企画したり、「米百俵まつり」「アオーレファッションショー」など、大きなイベントのスタッフを楽しく体験し、周りも元気にしています。



米百俵祭り時代行列に
参加しました



文書資料室職員が資料を
整理して持ち帰りました

長岡市民劇場

長岡市民劇場から舞台芸術愛好会へ

長岡市民劇場は、地方でも質の高い舞台芸術を鑑賞する団体として53年間続いて来ましたが、会員激減により平成24年の年末に解散となってしまいました。かつて、文学座・俳優座・劇団四季等々が長岡で上演した貴重な資料は文書資料室に納められました。舞台芸術を愛する仲間で、新たに「舞台芸術愛好会」を立ち上げ歩み始めました。あなたも仲間になりませんか。

まるごと与板 越後長岡与板ゆかりの日本画展

住民が1つになって 与板の魅力を全国に発信

アオーレ長岡に「平成の与板衆」が出陣しました。与板ゆかりの日本画家である大矢紀画伯、三輪晃久画伯、大矢十四彦画伯の三画伯による展示会をはじめ、与板の物産、削花、ピール等々、与板のまちづくりに関わる人々がナカドマに集結。アオーレでの地域ぐるみのイベントは初めて。地域の良さをPRする絶好の機会となりました。



美しい日本画の作品に多くの方が
足を止められていました

ナカドマで盛大に行われた
「まるごと与板」



7月

地域づくり

地域の課題を協働で解決したい!

与板と小国の2地域では、お茶の間活動などの地域づくり活動をもっと元気にしたいとワークショップを開催しました。

与板 高齢者の見守り活動について、気になる点やこれから取り組めることを参加者が考えました。

小国 「小国地域づくり交流会」の企画を考え、課題や夢を語り合いました。

「小国地域づくり交流会」の様子



「与板高齢者見守り・地域コミュニティ推進事業ワークショップ」の様子

8月

越後長岡まちの駅ネットワーク

市内外のまちの駅がつながった!

まちの駅とは様々な情報が集まり気軽に寄ってもらえるスペースで、長岡市内には59駅が点在しています。

8月には、ナカドマで新潟県内のまちの駅が集結する「まちの駅にいがた県大会」を開催し、物産販売で地域をPR、まちの駅同士の交流会で親睦を深めました。県外からは福島県が参加し、12月には「心のくつした便」でさらに絆を強めました。

※心のくつした便とは、まちの駅が窓口となり東日本大震災で避難されている方々に心のこもったクリスマスプレゼントをしようという企画です。



新潟県内のまちの駅が大集合!



全国のまちの駅から集まった「心のくつした便」は、福島県の仮設住宅へ届けました



多くの人にゴミを拾ってもらいました

日本たばこ産業と長岡大学

企業と学生の協働

日本たばこ産業では「ひろえば街が好きになる運動」という清掃活動を全国各地のお祭りやイベントで行っています。お祭り主催者や各自治体、NPO団体、学生などの方々と連携し、市民自らがごみ拾いを体験する、「市民参加型」の清掃活動です。長岡では、2004年の長岡まつりを始めとし、これまでに8回で約7,850人の方々が参加しました。

昨年は、当日の設営や市民の方々への誘導を行うサポートスタッフとして、長岡大学学生3名が参加しました。2日間大変暑い中でしたが、学生、ゴミ拾いをする市民、日本たばこ産業の3者が一生懸命活動しました。



9月



健康者も障がい者も一緒に
なっている畑作業



川に関係する人材や
NPOのネットワークを
図るためにEポートを
使った市民同士の交流

NPO法人UNEと関越連携協議会

交流イベントがさらに大きくなった

信濃川流域の地域を元気にしようと活動している関越連携協議会と持続可能なユニバーサル社会を目指して栃尾・信濃川流域で農業を軸に活動しているNPO法人UNE。両者が「のもーれ!長岡」での出会いをきっかけに互いの想いに共感し、千秋が原でイベントを行いました。

妙見からEポートで信濃川を下る「関越リパークエスト」とNPO法人UNEの「芋ほりイベント」の参加者が合流し、さらに大きな交流が生まれました。

※Eポートとは、人々が気軽に川に集まり、川で交流(Exchange)するために考え出された交流のためのポートです。

10月

ハロウィンイベント

学生と地域がつながった

キズナの森が毎年行っている、ハロウィンイベント。今年は活動をさらに拡大させたいとの想いから中之島、見附、長岡の3地域合同のハロウィンイベントを行いました。中之島、見附地域はキズナの森が、長岡中心市街地はNPO法人まちなか考房が中心となって行いました。長岡商業高校は企画から当日のグッズ販売などの運営を、クレアヘアモード専門学校はフェイスペイントで技術協力を、新潟大学附属長岡中学校も商店街の清掃や当日の運営などで協力し、イベントは大成功しました。

刈谷田川防災公園での
ハロウィンイベント



参加者も運営スタッフも笑顔
であふれていました!

たすきがつながり
見事ゴール!



きずなマラソン

地域がたすきでつながった!

2012年の10月23日で中越大地震から8年を迎えました。各地で市民の手による追悼式典やメモリアルイベントが開催されました。川口地域では「きずなマラソン」を行いました。お年寄りから子供まで、地域の人やボランティアも参加し、すべての集落をたすきでつなぐこのイベントは、川口が震災以降築いてきた「きずな」を象徴するものです。

みんながつながった
「きずなマラソン」





市民活動フェスタ
ステージの様子

11月

市民活動フェスタ

市民活動団体同士がつながった

市民活動フェスタは、市民活動団体が日ごろの活動を展示やステージなどでPRし、参加団体同士のネットワークづくりが出来るお祭りです。

今年は事前にポスター作成会でデザインテクニックを学び、市民活動フェスタ前夜祭として開催した「のもーれ!長岡」で交流の輪が広がりました。



市民活動フェスタ
前夜祭のもーれ
の様子

フェスタ前夜祭のもーれ
で活動をPR!

大地の会

活動PRができた

越路地域で「大地のなりたち」を中心に学んでいる地学学習グループです。市民活動フェスタの展示をきっかけに、その後協働センターの展示スペースでも3Dで飛び出す地形地図の展示を行いました。展示期間中、スタッフの説明や書籍販売もすることができ、活動を知らなかった方にPRすることができました。



ホワイエでは広い
スペースで展示しました。

12月



講師を囲んで熱心に
インタビューしました

長岡市立西中学校

長岡人物ファイルの学生インタビュー

西中学校1学年6クラス200人は、長岡の知りたい事、「花火は誰が作って打ち上げるの?」「消雪パイプを作ったのは誰?」「山本五十六はどんな人?」「B級グルメは誰が言い出したの?」などの様々な疑問に関係者に聞き取りしました。協働センター会議室では9人の講師を囲んで生徒たちが質問をしました。『ドラマチック人生★長岡人物ファイル』の出来上がりが楽しみです!

1月

長岡パークゴルフ協会

競技人口を増やし、活動拠点を広げたい

長岡パークゴルフ協会の活動拠点は現在川口1か所です。今後は、高齢者や女性を中心に幅広く普及し競技人口を増やしたいと思っています。NPO法人くらしサポート越後川口がアオーレで「オール川口フェスタ」を行うと聞き、パークゴルフの体験会を開きました。

長岡パークゴルフ協会のメンバーで作り上げた体験コースは、老若男女問わず訪れた人に大人気でした。



特設体験コースに
多くの人から楽しんで
いただきました

NPO法人くらしサポート
越後川口へ派遣研修



地域循環ネットワーク
での活動体験



NPO派遣研修

長岡市役所職員がNPOの現場へ

長岡市役所はNPOの活動をより深く理解するため、職員5名を地域循環ネットワーク、多世代交流館になニ〜ナ、くらしサポート越後川口の3つのNPO法人に派遣しました。日常の活動体験やスタッフ会議への参加を通して、NPO活動の現場を学び、スタッフの方々との交流を深めました。

大積の自然薯を使っての
そば打ち講習



2月

コミュニティセンター交流

広がるコミュニティセンター交流事業

大積コミュニティセンターでは、渡辺センター長自らが講師となり、地元の自然薯をつなぎにした「そば打ち」の講習会を毎年開催しています。今年はこのそば打ちを大島コミュニティセンターの女性対象事業でも行いました。「そば打ち」から次の交流へと繋がります。

NPO設立のための
ワークショップ



NPO法人キズナの森

NPO法人が生まれました!

刈谷田川防災公園の維持管理を通して住民の防災意識を高めながら、長岡市中之島地区と見附市今町地区の交流を深めることを目的とし活動しているのが「キズナの森」です。今までは芝桜植栽会やハロウィンイベントなどを行っていました。9月のまちの駅オープンで活動も拡大することからNPO法人化に踏み切りました。



新しい出会いによって 生まれた協働 ◆◆◆

- ピュアはーとが三島ライトアップイベントに参加【P2～3の5月記事参照】
- NPO法人UNEと関越連携協議会が合同イベントを実施【P4～5の9月記事参照】
- NPO法人地域循環ネットワークが食育指導士の食育教室を視察【下記①参照】
- 郷土料理をテーマにお母さんたちが交流【下記②参照】

1 店主に出会って小学生への教え方を 学ぶ事ができました。

自分たちは給食の調理ゴミや食べ残しなどから飼料を作り出す事業を行っています。また啓発活動として小学生へ環境教育を行っています。そこで小学生へわかりやすく説明するためにどうしたらよいか考えていました。7月店主で食育指導士の佐藤久美子さんと出会い、佐藤さんが幼稚園で行っている食育指導の見学にいくことができました。子どもたちの集中力が切れないように、こまめに休憩をとったり、紙芝居をするなどの工夫を学ぶ事ができました！

2 プロジェクト結プロデュース!! 郷土料理をテーマにお母さんたちが交流!

11月の「のも〜れ!長岡」では、地域のごつつお(ご馳走)を持ってきてもらい、落ち葉アートや和紙で小物づくりをしながら、お母さん方が交流しました。

〈プロジェクト結のお母さんたちの声〉

○料理を出したらおいしい!といってもらえてうれしかった!

○手芸の作品を多くの人に見てもらえて、よかった!

〈参加者の声〉

○料理のレシピはどこかにあるの?教えてほしい!学校の給食に出してみたい! (参加した給食員)

○大きなキルトは根気のいる作業なのに、丁寧に作られていますすごい!

※プロジェクト結とは地域(川口、小国、山古志、栃尾など)の女性やシニアが輝く場づくりを目的としている団体です。

のも〜れ!長岡スタッフから一言

事業協力者を求めて「のも〜れ!長岡」に参加される方々が市内に多くいらっしゃるようになりました。今後も皆さんの事業協力者…ファンが見つかるような「のも〜れ!長岡」を、みなさんと一緒に作り上げていきたいと思っています。

長岡の市民活動を盛り上げるには、まずここから。あなたのアイデアややりたいことをぜひ聞かせてください。一緒に実現しましょう!

「1日店主 のも〜れ!長岡」とは、長岡市内の市民活動で活躍している人を発掘し店主として紹介、市民活動に関わる団体や個人同士の交流を目的とし、毎月第4金曜日に月替わりの店主を迎え、今年度には10回開催しました。学生からシニアまで延べ約700名の方々に参加していただき、市民活動団体が一同に会する機会「市民活動フェスタ」に加え、今年度の「のも〜れ!長岡」を通して参加団体同士が「顔と名前を知っているだけ。でも何やっているかよくわかる。大切な協働のパートナー。」へと変わっていったようです。

どのように市民協働センターが使われたのか

アオーレ西棟3階の市民協働センターは、さまざまな情報が集まり発信されるプラットフォームとして、市民活動の有益なスペースとなるように工夫を重ねてきました。
わずかなスペースでも市民活動のハレの場として使っていただきました。
市民活動団体が開催するイベントのチケット販売も、団体のひとつの支援として行いました。
電話、窓口でさまざまな相談が寄せられました。



協働センターロビーの壁を使っての展示

市民活動団体 >>> 相談窓口

相談内容

- 事業のPR方法を知りたい
- 活動のパートナー紹介
- NPO法人のメリット、デメリットを知りたい
- 他団体の情報がほしい
- 大学生のボランティアを紹介してほしい
- アオーレでのイベント企画相談

個人 >>> 相談窓口

相談内容

- 協働センターの内容を知りたい
- ボランティア先を紹介してほしい
- 新しい団体を作りたい
- アオーレ施設についての質問
- まちの駅について問い合わせ
- アオーレで自分の作品を展示したい

学校 >>> 相談窓口

相談内容

- ファシリテーター派遣依頼(大学、小学校)
- 総合的な学習の進め方アドバイス(小学校・中学校)
- 総合学習をアオーレで展開したい(小学校)
- 行事開催の会場アドバイス(大学)
- 助成金申請書の記入アドバイス(大学)
- 生徒のボランティア受け入れ先を紹介してほしい(中学校・専門学校)

行政 >>> 相談窓口

相談内容

- 地域関係者ワークショップの運営を手伝ってほしい
- 事業の運営アドバイス
- 市民交流事業に参加してくれる団体を紹介してほしい
- 事業運営ボランティアを探してほしい
- 事業参加者を募ってほしい
- 協議会の委員を推薦してほしい

事業所 >>> 相談窓口

相談内容

- アオーレで開催する企画の運営相談
- ボランティアを紹介してほしい
- 協力してくれる団体を紹介してほしい
- イベントの出演者を紹介してほしい
- チラシ設置の問い合わせ
- ボランティア活動の参加者を紹介してほしい

コミセン >>> 相談窓口

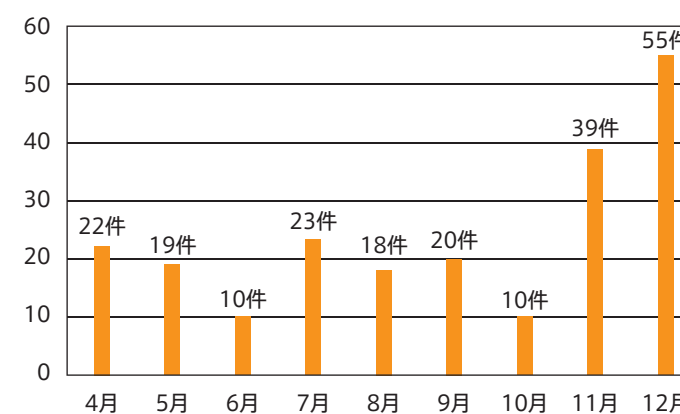
相談内容

- 女性対象の事業のヒントがほしい
- 他のコミセンの事業を知りたい
- 助成金の紹介
- 大学の先生を紹介してほしい
- まちの先生リストの問い合わせ
- アオーレ施設使用のアドバイス

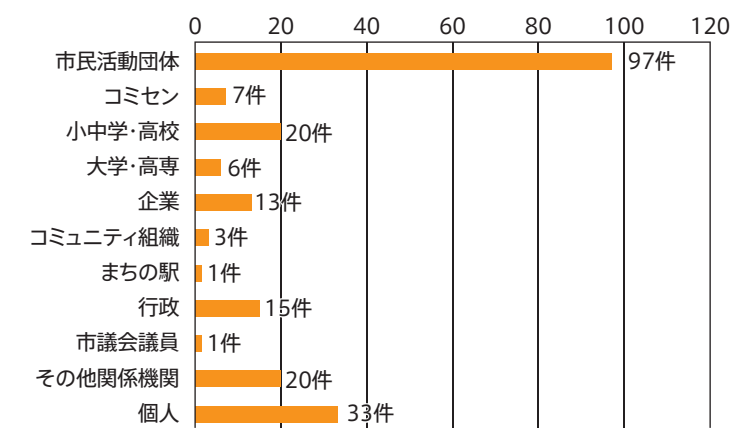
市民活動団体が開催するイベントのチケット販売



①月別相談件数(平成24年)



②相談者別件数(平成24年)



1 認定NPO法人への 寄付控除

毎年2月中旬から3月中旬にかけては確定申告の時期です。医療費控除やマイホーム購入に関わる控除などはよく知られていますが、「認定」NPO法人(※1)に寄付したと

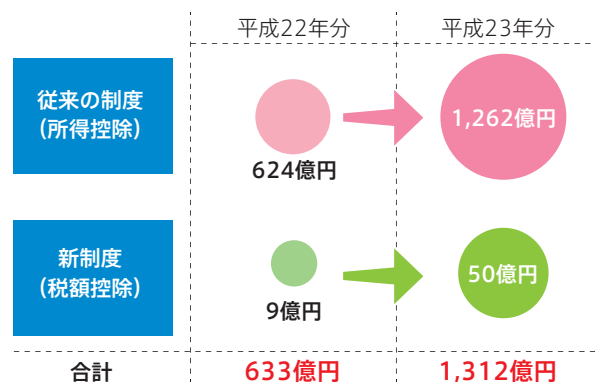
きも同じように控除が受けられるようになったことを皆さんご存じですか？
これは、平成23年6月からスタートした「新寄付税制」によるものです。

新制度の概要

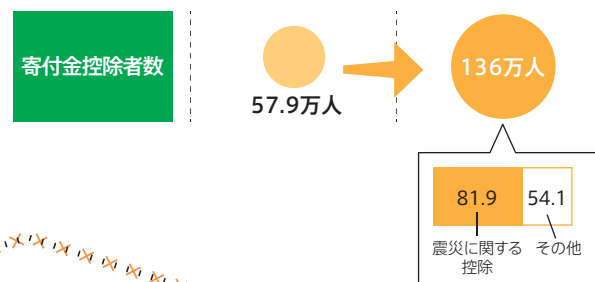
(年間の寄付金額－2,000円)×40％＝税額控除額

※税額控除方式。(※2)
※ただし①算出時の 年間の寄付金額 は「同年の総所得金額等の40％」を限度額とする。
※ただし②税額控除額は「その年の所得税額の25％」を限度額とする。

寄付控除等の適用状況



(注)「新制度」欄は、従来の「政党等寄付金特別控除」のほか平成23年度において新たに措置された「特定震災指定寄付金特別控除」、「認定NPO法人寄付金特別控除」及び「公益社団法人等寄付金特別控除」を合計したものである。



連載 月刊寄付白書 寄付控除

2

平成23年度
寄付金控除利用約
50億円

では、実際はどれくらい利用があったのでしょうか？

『寄付白書2012(※3)』によると、平成23年度の寄付金控除利用者は約136万人に達し、うち81.9万人が震災関連寄付での利用でした。また寄付金控除(所得控除)も1,312億円に達しました。

特に新寄付税制で導入された認定NPO法人等寄付金特別控除や公益社団・財団法人等特別控除に関しては約50億円の適用を受けていることがわかりました。

平成22年度寄付金控除制度利用が57.9万人、634億円であったことを考えると、平成23年度は寄付控除利用者136万人、控除金額1,312億円とともにほぼ倍増しています。東日本大震災を受けて寄付が大きな後押しになったと言えます。

寄付税制の周知や広報はまだ十分とは言えませんが、税制の利用面でも寄付元年と言われていることを感じさせる結果となりました。

3 納税か？寄付か？

では、なぜ新寄付税制で認定NPO法人への寄付に控除が適応されるようになったのでしょうか？
認定NPO法人への寄付金に税額控除が適用されるということは単に個人寄付に対する税制優遇だけでなく、日本社会の公共資金の流れを変える可能性を秘めています。

個人寄付者の寄付金の半額が減税になるということは、寄付者の自己負担が半分。もう半分は減税という形で、政府と自治体が負担したことになります。これは本来、税金として支払う予定だったも

のという意味です。この制度を使って認定NPO法人等に寄付をするということは、自分の税金の一部を認定NPO法人等に任せるということでき、市民自らの意志で自身の税金の使途を指定できるものといえます。

この仕組みが機能するためには寄付金控除の対象となる認定NPO法人が増え、市民の選択肢が増えることが必要となります。NPO法人が切磋琢磨し、成果を分かりやすい形で情報公開していくことが新しい社会を支えるために重要となるのです。

寄付税制について詳しくは…

【認定とろう!NET】<http://www.nintei-torou.net/>

(※1) 認定NPO法人とはNPO法人のうち「より客観的な基準において、高い公益性をもっている」と判定されたNPO法人です。NPO法人への寄付に関しては認定NPO法人への寄付が控除の対象です。新潟県内には4つあり、森の会(新潟市)、くびき野NPOサポートセンター(上越市)、分水さくらを守る会(燕市)、あにまるネットワーク・ポニーズ(上越市)が該当します。(平成25年2月20日現在)

(※2) 寄付控除については、従来の所得控除方式も選べるが、この税制改革では税額控除を新たに選ぶことができるようになりました。個人の方が税制優遇を受ける場合は、税額控除の方式の方が有利な場合が多いです。

(※3) 日本ファンドレイジング協会編。日本における寄付の現状などを示している。



アルパパが行く！

オール川口フェスタ裏側レポート！

2013.1.20
inアオーレ長岡

参加者からはこんな意見がありました。



真冬にもかかわらず、たくさんの方が参加してくれてうれしいです。また市外や東京からおいで頂いた方もいて、感謝しています。おいしい食べものや、あったかい人情と風土を感じに、川口に遊びに来てください。

川口支所長
長谷川 久さん

渡辺さん

外に出て自分たちをPRする事が出来てよかったです。



越後川口雪洞火ほたるもきれいですよ！

関さん

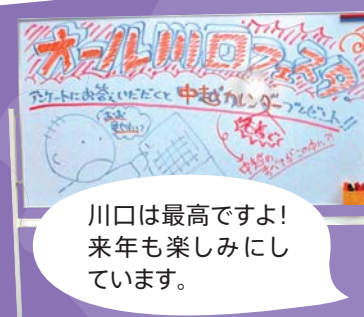


越後川口そばネットさんには、中越地震から立ち上がった素敵なエピソードがありましたので、紹介します。

「越後川口そばネット」は、田麦山、木沢、和南津地区が連携を組み、中越地震後に誕生しました。和南津地区では震災時、栃木から来ていたボランティアさんからそばの育て方と打ち方を習ったきっかけで、そば作りが始まったそうです。今では「新そば祭り」を行い、それぞれの地域で新そばを頂くイベントが開催されています。ぜひ、皆さんも参加してみたいはいかがでしょうか？



当日のそば打ち体験の様子



川口は最高ですよ！来年も楽しみにしています。

砂川さん

主催者から一言

今回は、初めてだったので、来場者の数が読めず、不安に感じていましたが、会員やボランティアさんなどたくさんの方の協力でPR活動が出来た結果、予想以上に来場して頂いてほっとしました。また、皆さんの喜びの声が励みとなりました。今後も地域の皆さんとともに越後川口のファンを増やしていけるようなイベントを企画していきたいと思っています。

くらしサポート越後川口
赤塚さん



協働のまちづくりの潮流

人類を救う
長岡の思想

第4回「澱まず時代を超えて流れる長岡の思想」

この連載では、「長岡には、協働の気風がある」という言葉からスタートし、時代が変わっても肅々と流れる長岡の協働のまちづくりの思想や行動を少しばかり紹介してまいりました。その潮流が澱むことなく、はたまた転流することもなく、現代に繋がってきたのはなぜか？その事をこの最終回で考えてみたいと思います。

時代が変われば、人々の考え方や行動様式は当然変化してきます。しかし変わってはいけないことがあると思うから、人間は後世へ様々な事を伝えようとします。市民協働条例を検討していたころ、条例の概略を示す前文の中で次のような文章が入ったことがありました（最終的には長すぎてカットになったが）。「長岡には、市民の心に脈々と息づいている精神があります。苦しい時こそ将来のための人材育成が大切であると説いた小林虎三郎の「米百俵」の精神。常に戦場にいるという緊張した武士の心得を示した長岡藩の「常在戦場」の家風。宇宙で唯一生きている独尊と社会と一緒に生きようとする互尊が大切であり、独尊なくして互尊なく、互尊なくして独尊はないと唱えた野本恭八郎の「互尊独尊」の思想…。長岡のまちは、こうした精神風土に育まれてきました。」まさにこれが長岡の時代が変

わっても、変わらない思想です。これらの思想は、「協働のまちづくり」という行動（手段）の根底にある、人や社会がどうあるべきなのかという「在り方」の問題であります。これまでこのコーナーで扱ってきた物語は戊辰戦争からの復興期、それに連なる明治の産業づくり期における出来事でした。日本人はいまだに「維新」という言い方を好むほどに、大変革期です。第1回で扱った「ランプ会」の活動は、明治2年という戊辰戦災からの復興の真っ只中です。この時代に身分にとらわれずにこの町の未来を描いたこのランプ会は画期的なものでした。三島億二郎は士族に「今は士族も町民も変わりなく、商人と同じように働くことだ」と説き、岸宇吉も「狭い町人根性を捨て、新しい知識を摂取して、商売に役立てよう」と町民に説いたそうです。第2回の「互尊思想」の時代背景は、石油景気の真っ只中で、長岡の石油景気は、新潟県の経済を引っ張っていくほどでありました。しかし、この時勢は皆金儲けに走り、互いにいがみ合うことも各地で起こるような時代でした。そのことが、互いに敬意を払い、共存していかなければいけないという「互尊思想」を生んだとも言われます。第3回で集まった鉄道網の整備に尽力した山田権三郎、久須美秀三

郎の物語は、民間が主導し日本の経済が大きく動き出すまさにその要となった話でした。人は、社会に緊張が走った時にこそ、私たちはいかに生きるのかという「在り方」を問うのだと思います。それは災害であったり、社会が不安定化したり、時代の変わり目に起こります。長岡では2度の戦災から不死鳥のように蘇った町という言い方をします。また雪害、水害、震災と多くの災害を経験してきた町でもあります。その都度我々は、この町が、自分がどうあるべきなのかを考えてきたのです。2004年に起きた中越地震も同様でした。市民協働条例は、もしかしらこの中越地震がなかったら生まれなかったのかもしれませんが。中越地震からの復興の過程では、ランプ会のように官民の壁を越えて、私たちはどう復興していくべきなのか議論をしました。行政だけではできない事、住民だけではできない事、協力すればできることを学びました。安心安全な町をつくるためには、互いに助け合うコミュニティが重要である、またそこには人材が何よりも重要であることが語られてきています。私たちは、何か大きな社会の変化が起こった時に、立ち戻るべき思想を持っているのです。



市民協働この1年を振り返って

To look back
on a year



NPO活動の存在と、企業の社会貢献

羽 賀 友 信

NPO法人市民協働ネットワーク長岡 代表理事

日本がNPOの価値観に気づいたきっかけは1995年の阪神・淡路大震災でした。ボランティア元年とも言われていますが、1995年と2010年の人口を比較すると日本社会の課題が見えてきます。総人口はほとんど変わりませんが、65歳以上の人口は約6割、75歳以上は約2倍に増加しています。また65歳以上のみで構成される世帯割合も約4割増加しています。一方で、若者（18歳人口）は2/3に減少しています。これは若者が減り、高齢者が増えたことから財政的にもマンパワー的にも行政の力が衰え国力の低下が顕著になってきています。11市町村が合併した長岡では、周辺地域の過疎化が中

越大震災を通して加速化されてさらに大変な状況になっています。団体自治といわれる税金をベースにした行政のみでは地域の活性化を担うことは難しくなり、住民自治といわれる寄付金をベースにしたNPO活動の存在と、企業の社会貢献が大きな鍵となります。専門性の高い団体を、地縁コミュニティと協働していく仕組みづくりが大切になります。昨年の4月からオープンした市民協働センターは、関係団体を把握し交流する活動をしてきました。今後の課題はNPOの専門性と団体運営能力の強化を目指します。地域の皆さんにも、わかりやすく活動を見せていくことが大切だと思います。

4月1日オープンからこれまで、そしてこれから・・・

渡 辺 美 子

ながおか市民協働センター 事務局長

華々しくオープンした、公と民の協働を象徴する市松模様のアオーレ内に同時オープンした「市民協働センター」。『協働』という言葉がまだまだ市民には浸透していない中で協働センターに訪れる人がいるのか、何を求めて来てくれるのか、期待と不安が入り混じる当初でした。待っているだけではなく、市民活動団体、支所地域、コミュニティセンターなどに出向き、人に会い、話を聴くことを繰り返しました。長岡は震災を経験したことから、地域コミュニティを見直し、守ろうとする熱い思いの人たちが多いことを知りました。また、地域の安心・安全の為に、次世代を担う子供たちの為に、知恵と力を寄せ合い、地域活動を繰り返し広げている人たちにも会いました。そして協働センターの運営目的を理解していただき、互いに認め合える関係を築いてきました。

協働センターオープンから一年が経とうとしている現在は、多方面から様々な相談が寄せられています。その解決の糸口は、関係を築いてきた方々から見つかることも多くあります。新しい協働の芽生えとなることもあります。まちづくり、人材育成、市民活動の成果は目に見えず評価するものさしありません。協働センターの存在価値は、関わった方々から認められることで確かめられて行くのだと思います。今後も人に関わり、あらゆる可能性をみつける努力をしていきたいと思っています。行政とNPO法人との文字通り『協働』で運営している市民協働センターは、それぞれの特性の違いと持ち味を十分に理解し、市民活動への支援を共に推し進めて行き、数年後には、市民活動の確かな拠点となることを目指します。アオーレの市松模様のように、公と民でまちづくりのきれいな模様を織り上げて行きたいと思っています。



編集後記

まずは、一年間「らこって」をご愛読いただいた皆様に感謝いたします。「らこって」では、この一年間様々な角度から市民活動を行っている皆様にスポットを当てて取材を重ねてきました。まだまだ我々が知らないだけで、地域にはいろいろな活動をしている方、協働している方が大勢いらっしゃいます。そんな皆様と今後も出会い、耳を傾け、共感し、この「らこって」でもご紹介出来ればと考えております。

らこって FREE

2013.3.10
〈vol.12〉



【発行】ながおか市民協働センター
市民協働センターPRオープニングイベント実行委員会

〒940-8501 長岡市大手通1丁目4番地10
シティホールプラザ アオーレ長岡 西棟3F ながおか市民協働センター
Tel.0258-39-2020 Fax.0258-39-2900
Mail. kyodo-c@ao-re.jp URL. http://nkyod.org